

科学研究に係る「地域の色・自分の色」関係機関連携推進協議会

日時：平成28年7月16日（土）15：00～

場所：iichiko総合文化センター4階 中会議室1

次 第

1. 開 会

2. これまでの経緯

- 24年8月 県立美術館のあり方検討のため知事諮問機関設置、会長「佐藤禎一」
- 25年2月 諮問機関答申「将来を見据え、管理運営に合わせて、芸術文化を活用した人材育成と地域振興が必要」
- 26年4月 財団内に教育普及グループ設置
- 26年10月 姫島小中学校「地元の石・土による顔料作り」を皮切りに、県下の小中学校に美術館出張授業を展開「32校実施」
- 26年11月 美術館教育普及の教育効果検証について、大分大学と協議開始
- 27年4月 県立美術館開館
2階に教育普及スペース設置
- 27年5月 県下全小学生を対象に、小学生ファーストミュージアム体験事業実施
～7月（県の無料招待）→次年度以降は4年生を対象に実施
- 27年8月 小学校新採2年目教諭を対象に、県教委ステップアップ研修を美術館にて悉皆で実施→次年度以降も継続
- 27年11月 教育効果検証に向け、日本学術振興会へ「幼小期における地域の色をテーマとした教科融合型学習の開発」として研究申請
- 28年4月 上記、科学研究費助成事業 基盤（B）（一般）に採択
- 28年5月 大学と協議のうえ、研究の基盤づくりに向けた「関係機関の調整」や「実施段階における支援」を目的に、「科学研究に係る「地域の色・自分の色」関係機関連携推進協議会」設置
大学からの「受託事業の受け皿」として「科学研究に係る「地域の色・自分の色」実行委員会」を設置（事務局は財団）

3. 会員紹介

4. 代表あいさつ

公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団 理事長 佐藤 禎一
（元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使・元文部事務次官）

5. 顧問あいさつ

大分大学経営協議会 委員（元文部科学事務次官） 御手洗 康
弁護士（元大分県教育委員長） 立花 旦子
姫島村 村長 藤本 昭夫

6. 研究代表者と研究チーム紹介

7. 研究代表者あいさつ

大分大学教育学部 教授 藤井 弘也

8. 科学研究に係る「地域の色・自分の色」実行委員会役員紹介

9. 教育実践校の紹介及び指定書授与

10. これまでの取組みと研究計画について

11. 閉会

科学研究に係る「地域の色・自分の色」関係機関連携推進協議会 議事録

- 1 開催日時：平成28年7月16日（土）15：00～16：30
- 2 場所：iichiko 総合文化センター4階 中会議室1
- 3 出席者：代表 佐藤 禎一
出席顧問 3名 御手洗 康、立花 旦子、藤本 昭夫
会員総数 20名
出席会員 18名 武田 喜一郎、中元 一郎、越智 義道、
堀 泰樹、梶原 敏明、能見 駿一郎、
米持 武彦、宗岡 功、後藤 榮一、
清松 今朝見、阿部 辰也、小池 一彦、
須股 哲史、後藤 哲郎、魚形 幸助、
黒木 久美江、伊東 俊昭、照山 龍治
出席参与 2名 渡辺 恭英、藤井 弘也
事務局実行委員会 委員長 照山 龍治
副委員長 木下 敬一
副委員長 木村 典之 ほか
研究チーム 西口 宏泰、大野 歩、麻生 良太
(公財)大分県芸術文化スポーツ財団
経営統括監兼総務課長 岡田 浩明
広報・連携課：課長 伊東 靖之、
課長代理 松尾 浩司
総務課：事務員 吉田 真樹

4 協議会の流れ

定刻、照山委員長が開会を宣言し、次第にそって進行。

冒頭、照山委員長からこれまでの経緯を説明。その後会員の紹介を経て、代表、顧問挨拶。研究代表者と研究チーム紹介、研究代表者挨拶、実行委員会紹介を行った。

教育実践校の紹介及び指定書授与。その後、これまでの取組と研究計画について木村研究員（実行委員会副委員長）と藤井研究員（実行委員会参与）から説明があり、質疑応答となった。